

「ひまわり」らしい ユニットケアとは・・・



介護事業部 介護事業課
介護係 ひまわりユニット
副主任Cw 滝口千秋

はじめに・・・

平成13年8月19日・・・

旧施設から新施設へ

「ひまわり棟」は・・・

- ◆認知症ご利用者
- ◆ガラス張りのフロア
- ◆3か所の施錠
- ◆モニター付きの居室が・・・



ひまわりのケアは・・・

- ・決められた時間に沿っての
流れ作業のケア
- ・ガラス越しに見ていたケア



**車椅子に拘束されたまま
転倒事故**

平成14年10月

- ・動きを止めるのではなく、そうする気
持ちに目を向けていく。一人ずつを
知っていく。
- ・利用者が出られないのであれば、ス
タッフがフロアから出ないで関わる。



スタッフの固定

利用者のことを知るために

- ・個別対応表作成
- ・月2回のフロア会議
(対応の評価と反省)



- ・一人にひとりに目を向けること
- ・耳を傾けること
- ・環境を考えること
- ・家族と関わること

**芦別慈恵園の
個別ケアのはじまりは・・・**

ひまわり棟から



平成20年2月29日 改修終了

「ひまわりユニット」

- ・10名の認知症ご利用者

【スタッフの願い】

- ・本当の家に少しでも近い雰囲気
⇒靴を脱いだ生活へ

ユニット目標



ひとりひとりが
暮らしの中で
楽しみを持ちながら
元気に生活する

新しい環境なのに・・・

靴を脱いでリラックス



お昼寝をする場所に・・・

- ・せっかくご家族が用意したお部屋が
使用されない
- ・日中の活動が少ない
- ・趣味や好きなことを知らない、促せない
- ・出来る事までも介助しているのでは・・・
センター方式の書式を抜粋し記載を開始

事例

F・T様（女性・明治42年2月10日）

- ・自宅で一人暮らし
- ・息子の闘病に付き添い
- ・着物を縫う仕事
- ・工場で働く
- ・毎日お寺に出かけ、掃除する

F様

「家が心配、帰りたい」
「ここにいても
何もすることが無い」
「夜は眠れない・・・」



F様だから出来る事を探す

「若いもんはダメだ～
こんなことも出来ない」



ご家族の「想い」が・・・

「重い」・・・

奥様は・・・

- ・ご主人ばかりに手がかかっていないか？
と尋ねる
- ・スタッフばかりにやってもらって気が引けると
思っている
- ・わかってはいるが、しっかりと欲しい、
立ってほしい、歩いてほしいと思っている



娘様達は・・・



- ・食事で出た物はしっかり全て
食べてほしい
- ・トイレですっきりと排泄させてほしい
- ・しっかりと介護されているか心配・・・

どこかで私たちは・・・

- ・一人だけを見ているのではない。
- ・10名の利用者見ている
- ・一人だけを完璧には出来ない

と、感じてしまう事がある・・・

でも・・・

私たちは慈恵園だけの関わりであるが

家族は

「ずっと見てきている」
「心配してきている」
「大切に思っている」

大切な人と関わっていく私たちは・・・

- ・利用者だけではなく、家族の想い、
気持ちがわからなければならないと思う・・・



本人や家族の
気持ちを知りたい！！



利用者とともに
暮らす事を決めた

「ひまわり」

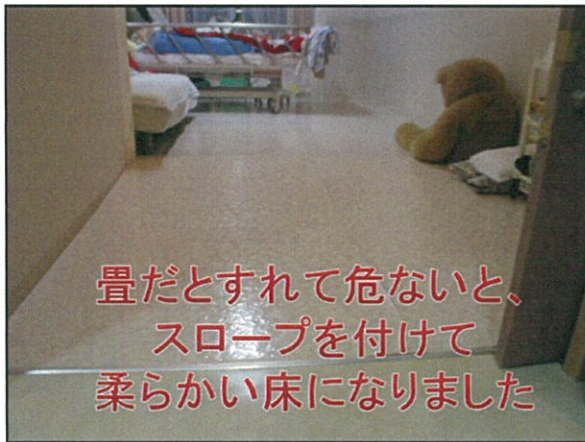




ここがひまわり棟です。



ここがすみれという部屋です。
鍵がかかる部屋でした。
部屋には何もありません



畳だとすれて危ないと、
スロープを付けて
柔らかい床になりました

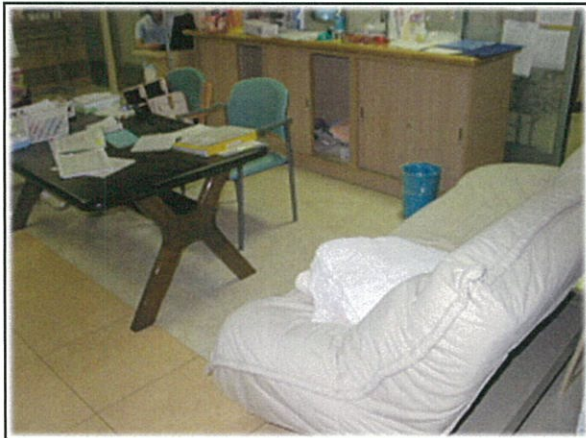
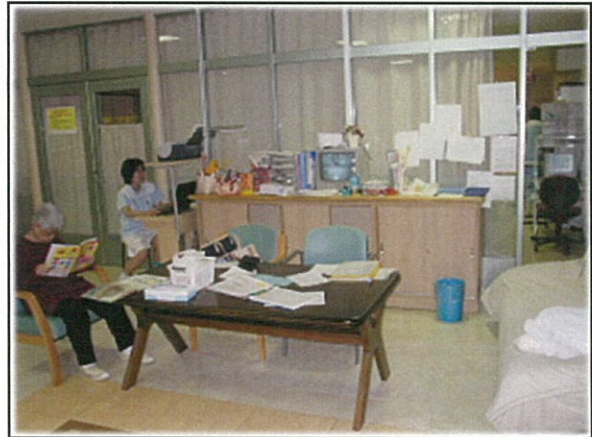


モニターがありました・・・



たった引っ越して
1年しか経っていないのに
無理を承知でお願いして
改修工事しました。

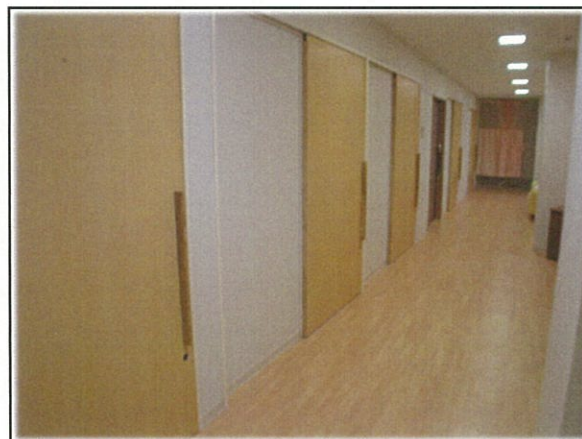
ほかの施設長さん達はみな、
皆木施設長さんの決断に
びっくりされていました。





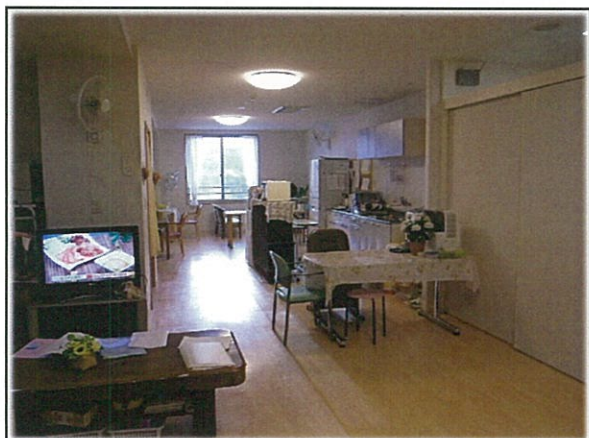
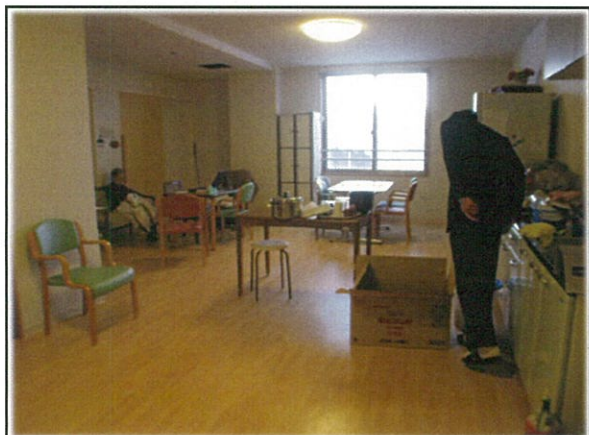
新施設に引っ越してから
6年が過ぎました。

待ちに待った
改修工事が始まる・・・



平成13年引っ越し当初は、
理髪コーナーでした





いまは、
こんな感じで
暮らしています









ひまわりユニットとして…

家族とともに…



わたしは…

- 自分から家族と関わってみる
- 知っている家族のことは伝えていく
- みんなが知っている事も知りたい



体感してほしい…

わたしは…

失敗したケアは
繰り返したくない！！



自分からは
あきらめない！！

改修工事から1年が……



家族懇談会で、皆と一緒に食事を

家族懇談会で涙が……



これからの「ひまわり」は..

ご利用者の気持ち

ご家族の気持ち

感じたことを活かして

「ひまわりユニット」の暮らしを